



山田正浩先生

略歴

氏名 山田正浩

生年月日 昭和17年8月19日

本籍 愛知県

現住所 〒470-0156

愛知県愛知郡東郷町御岳一丁目11-15

学歴

昭和36年3月 奈良女子大学文学部附属高等学校 卒業

〳 36年4月 京都大学文学部 入学

〳 40年3月 京都大学文学部史学科(地理学専攻) 卒業

〳 40年4月 京都大学大学院文学研究科修士課程(人文地理学専攻) 入学

〳 43年3月 同 修了

職歴

昭和43年4月 金沢大学教育学部助手(地理学教室)

〳 46年3月 同退職

〳 46年4月 愛知県立大学文学部専任講師

〳 51年4月 同助教授

平成元年4月 同教授

(昭和58年4月〜60年3月 学生部次長)

(平成5年4月〜7年3月 学生部長)

(〳 10年4月〜13年3月 文学部長)

(〳 5年4月〜15年3月 評議員)

現在に至る

この間、名古屋大学、愛知教育大学、同朋大学、信州大学、富山大学、中京大学、愛知文教大学 非常勤講師

平成13年4月～15年3月 大学入試センター第1委員会地理部会  
部会長

### 国外研究歴

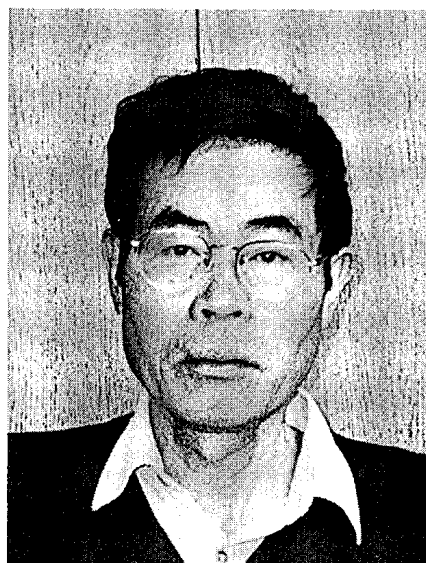
昭和48年3～4月 韓国(丙種)  
〳 53年7月 アメリカ(丙種)  
〳 56年7月 中国(丙種)  
〳 58年8月 韓国(丙種)  
〳 60年10月～61年9月 韓国(甲種)  
 (ソウル大学校 社会科学大学地理学科 客員研究員)  
〳 62年8月 韓国(丙種)  
平成2年8月 韓国(丙種)  
〳 6年8月 韓国(丙種)  
〳 7年8月 韓国(丙種)  
〳 9年10月 韓国(甲種)  
〳 10年5月 韓国(丙種)  
〳 10年10月 韓国(丙種)  
〳 11年8月 韓国(乙種)  
〳 15年8月 韓国(乙種)  
〳 16年8月 韓国(乙種)

### 主な研究業績

- 1 昭和50年4月 朝鮮における一九一四年の行政区画改正について——郡区画の検討を中心に——『歴史地理学紀要』17号 (政治区画の歴史地理) 所収 A5、PP157～179
- 2 昭和51年 3月 明治期における上津具村、下津具村の合併と分村 『愛知県立大学開学十周年記念論集』所収 A5、PP205～219
- 3 昭和53年4月 李朝時代の邑——構成要素とその機能——『歴史地理学研究と都市研究 下』(大明堂) 所収 B5、PP89～98
- 4 昭和54年3月 五ヶ山山村における屋敷配置と村落構造 「愛知県立大学文学部論集(一般教育編)」第28号 A5、PP15～29
- 5 昭和55年6月 朝鮮の村落——洞里——の規模と空間構成について 「愛知教育大学 地理学報告」VOL・50 B5、PP26～41
- 6 昭和56年3月 “セド”と“シマ”——名古屋東郊における村落内小地域集団の事例研究、『尾張洵行記』の記述を出発点として——『歴史地理学』第112号 B5、PP26～41
- 7 昭和58年3月 名古屋東郊村落における村落内小地域集団——“セド”の屋敷配置とその形成過程—— 「愛知県立大学文学部論集(一般教育編)」第32号 A5、PP47～64
- 8 昭和59年10月 『総観地理学講座9 人文地理学総論』2 (4)居住の地域構造 朝倉書店 (共同) A5、PP54～81
- 9 昭和60年2月 李朝時代における面名称——“方向”と“遠近関係”による——の分析 「愛知県立大学文学部論集(一般教

- 育編)〔本論文の一部は、「朝鮮、李朝時代における面名称の一特徴」、として『矢ヶ崎孝雄先生退官記念小論集』(昭和60年3月)にも収録〕 A 5、PP 63〜68
- 10 昭和60年3月『中部圏の地域開発に関する調査報告書』 II -
- 3 白山地域の歴史と風土、III - 赤石地域の歴史と風土、V -
- 3 海外事例 A 4、PP 46〜56、PP 198〜211、PP 358〜365
- 11 昭和61年4月 G・J・ルイス『農村社会地理学』(大明堂)(分担、監訳) A 5、PP 1〜61、PP 113〜137
- 12 昭和61年9月 日本 地方誌(史) 編纂의 進展과 現状 韓国 安東文化研究会 文化講演会
- 13 昭和61年9月 일본 에도 시대 촌락 구조의 특징에 대하여 ソウル大学 地理学科 Colloquium
- 14 昭和62年10月 韓国における都市化と都市問題 日・中地理学会議 大阪シンポジウム
- 15 昭和62年12月 한일 촌락에 대한 역사 지리적인 비교연구 - 서설 서울 大學校 社會科學大學 地理學科 地理學論叢 第14號 B 5、PP 193〜205
- 16 昭和63年3月 李朝時代(朝鮮時代) 村落の基本的構成要素 について「愛知県立大学文学部論集(一般教育編)」第36号 A 5、PP 87〜111
- 17 平成2年7月〜13年11月 地理学から見た日・韓比較論(1) (22)「淡水会報」6号〜29号
- 18 平成3年1月『世界地誌ゼミナール 東アジア』総論 3 I a) 大韓民国、各論 14 I a) ソウル 大明堂 A 5、PP 31〜41、PP 217〜223
- 19 平成4年1月 朝鮮半島における伝統的村落の構成要素について 中部人類学会 例会
- 20 平成4年8月 侵略と地形図 在日本韓国人教育者研究大会
- 21 平成4年9月 韓国における都市化と都市問題 『アジアの都市と人口』(古今書院) 所収 A 5、PP 61〜80
- 22 平成4年11月 小田内通敏と朝鮮 名古屋地理学会 例会
- 23 平成5年4月 李朝時代の里について——忠清道地方の資料を中心として—— 人文地理学会 例会
- 24 平成8年12月 李朝時代(朝鮮時代)の地方誌——邑誌——について「愛知教育大学 地理学報告」Vol. 83 B 5、PP 1〜17
- 25 平成8年12月 大正期における名古屋地域の拡大計画と周辺町村の対応——愛知郡役所文書を資料として——「愛知県立大学文学部論集(一般教育編)」第44号 A 5、PP 153〜175
- 26 平成11年8月 일본 지방자치체에 있어서의 지방지 편찬의 현상과 과제 韓国 文化歴史地理学会 シンポジウム
- 27 平成11年10月 韓国における地域・家族の変化と老親扶養意識(第一章 韓国調査地域の考察)を担当 愛知県立大学社会福祉研究 第1巻 第1号 A 4、PP 59〜68
- 28 平成15年3月 今に残る儒教文化「地理」Vol. 48 I 3 (特集 韓国の深層) A 5、PP 42〜49
- 29 平成16年4月 일본 에도 시대의 지방지 편찬에 대하여 문화역사지리 (韓国文化歴史地理学会) 第16巻1号 B 5、PP 335〜341
- 30 平成17年10月 李燦『韓国の古地図』(汎友社) (翻訳・分担) B 4、PP 479〜521

- 31 平成17年12月 韓国調査旅行記——03年8月のフィールド  
ノートから「愛知教育大学 地理学報告」Vol.99 B5、  
PP 47～60
- 32 平成18年12月 慶尚南道地方における人口変動と村落、農業  
——アンナムコルと水谷面の事例を中心に——「愛知教育大  
学 地理学報告 Vol.103 B5、PP 26～40
- 33 平成19年12月 현대일본에서 성의 역사적 역할과 상징성의  
변화  
慶尚道 邑治 国際シンポジウム(韓国 慶尚大学校 慶南  
文化研究所)
- 34 投稿中 愛知県公文書館所蔵の「明治十七年地籍図・地籍帳」  
について 愛知県史研究 第十二号
- 35 投稿中 朝鮮時代の「面」と「里」について——忠清道地方  
の邑誌を資料として—— 愛知県立大学 文学部論集(日本文  
化学科編) 第56号
- 36 投稿中 朝鮮半島 『アジアの歴史地図』 第17章 第3節  
朝倉書店



近藤讓治先生

## 履 歴 書

氏 名 近藤讓治  
生年月日 昭和17年4月15日  
現住所 名古屋市昭和区御器所三丁目29-15

### 学 歴

昭和37年3月 徳島県立城南高等学校卒業  
昭和38年4月 香川大学経済学部経済学科入学  
昭和41年3月 香川大学経済学部経済学科卒業  
昭和41年4月 名古屋大学大学院経済学研究科修士課程入学  
昭和43年3月 名古屋大学大学院経済学研究科修士課程修了（経済学修士）

昭和43年4月 名古屋大学大学院経済学研究科博士課程入学  
昭和45年9月 名古屋大学大学院経済学研究科博士課程中途退学

### 職 歴

昭和45年10月 愛知県立大学文学部助手兼同女子短期大学助手  
昭和55年4月 愛知県立大学文学部講師兼同女子短期大学講師  
平成5年3月 免県立女子短期大学講師兼務  
平成5年10月 愛知県立大学文学部助教  
平成10年4月 愛知県立大学文学部日本文化学科助教  
平成19年4月 愛知県公立大学法人・文学部日本文化学科准教授  
平成20年3月 同上 定年退職（予定）

研究業績

1 著書 なし

2 論文

1 昭和49年12月 「ヒューム：『人間本性論』における同感と社会」『愛知県立大学文学部論集（一般教育篇）』第25号（一九七四） pp30-47

2 昭和55年3月 「ヒューム社会哲学における人間的自然と社会—その1—」『愛知県立大学文学部論集（一般教育篇）』第29号（一九八〇） pp49-61

3 昭和61年3月 「ヒューム『人間本性論』における想像力と人格同一性」『愛知県立大学創立二十周年記念論集（一九八五）』pp17-37

4 平成2年3月 「ヒュームの『人間本性の尊厳』についての覚書」『愛知県立大学文学部論集（一般教育篇）』第38号（一九九〇） pp125-135

5 平成4年3月 「ヒューム社会哲学における人間的自然と社会—その2—」『愛知県立大学文学部論集（一般教育篇）』第40号（一九九二） pp99-118

6 平成5年3月 「ヒューム社会哲学における人間的自然と社会—その3—」『愛知県立大学文学部論集（一般教育篇）』第41号（一九九三） pp1-16

3 学会発表 なし

4 所属学会 経済学史学会 社会思想史学会 日本イギリス哲

学会

5 社会活動 名古屋市昭和区生涯学習センター「社会科学ゼミナール—J・S・ミルの『自由論』を読む」のチュウウター（1990年10-11月）